

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

7

秋田書店と私



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日（金）から29日（日）の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

おやしマンガ同人誌

つ新つれづれ草

マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄
(著者少年ジャンプと共同連載「男のつづきの大五」)

日時：10月20日（金）～10月29日（日）
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）

会場：森下文化センター1F展示ロビー
お問合せ：森下文化センター
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





7 秋田書店と私

秋田書店は私が生まれる2年前の1948年に児童書の出版社として創業。翌1949年に月間マンガ誌の「冒険王」を創刊している。

新宿のマンガ喫茶「コボタン」に出入りしていた頃だったので、高校二年になっていたと思う。マンガ雑誌の編集部に自分の描いた原稿を持って回ったことがある。自分のマンガが売れるなんて思っていたわけではないのだが、編集者に自分の原稿を見てもらい、何を言ってくれるか、評価してもらいたいとワクワクする様な期待があった。

「コボタンで名刺をもらった集英社の「少年ブック」で読者ページのレタリングの仕事をもたらったのに気を良くして、「秋田書店」「少年画報社」そ

して「ガロ」の編集部にまで行ってしまった。当時事前に連絡もせず飛び込みで行ったのにもかかわらず、新人担当の方が丁寧に対応してくれた。

少年画報社では、貸本マンガの出版社から移籍してきた、名物編集者の通称「熊さん」が対応してくれたり、ガロ編集部では、編集長の長井勝一さんが直接原稿を見てくれた。

それぞれ「頑張りなさい」と励まされて帰ってきました。

世間知らずの高校生の訪問を、ていねいに対応していただき、今考えると感謝しかありませんね。

秋田書店「第二出版部」

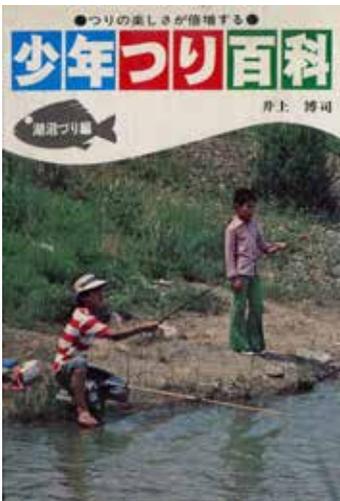
秋田書店には、雑誌の編集部とは別に「第二出版部」という単行本専門の編集部があって、「つり入門」という実用書の、つりの仕掛けの図を描く仕事をもらうことが出来た。マンガのカットやイラストではなくて、図版の仕事だったが、これが秋田書店から頂いた最初の仕事だった。

「忍者忍法入門」では、忍者の武器の図や忍法修業の解説図の仕事を頂いた。

後日「少年つり百科」という上製本のシリーズでは、図鑑に掲載されている様な魚の精密画のカラーイラストの仕事も頂くことがあった。



つり入門・秋田書店刊



少年つり百科・秋田書店刊

マンガ家として

少年ジャンプ「悪魔の水」でデビューした後、ジャンプ編集部とは距離を取っていた時期に、秋田書店の月刊マンガ雑誌「まんが王」（壁村耐三編集長）に声を掛けていただいた。「毎月ページを開けるから内容は自由に描いて欲しい」とのことだった。

私は少年ジャンプで何回も書き直しさせられて自由に描けない不満がたまっていたので、その話に飛びついて「道具（47ページ）」を描いた。

しかしこの作品が掲載された号で「まんが王」は休刊になってしまい、毎月掲載の約束も消えてしまった。

少年ジャンプに戻った私は、「つそつき」を発表する。

壁村さんが編集長に就任した「冒険王」から再

びマンガの依頼があり、「よむむし」を描く。

少年ジャンプで「命の契約書」「雪どけの詩」を発表するが、完成掲載までに限りなく書き直しを要求され繰り返し返すジャンプと、自由に描かせてもらえる秋田書店との間で、ストレスがたまり、「もう二度とジャンプでは描かない」と決心する様になる。

しかし「冒険王」も「まんが王」に続いて休刊になってしまう。

「少年チャンピオン」の編集長に就任した壁村さんから、「別冊チャンピオン」で描かないかと誘っていた。

別冊チャンピオンで「ともだち」「あに、おとう」と「おせわの長兵衛」「どぶ川学級」と描きつづけ、「負けずの大五」の連載につながって行った。

再び「第二出版部」との仕事が

「負けずの大五」で失敗した後は、秋田書店との仕事はしばらく無くなっていった。

編集プロダクションを作って、アニメ特撮、ゲームの仕事をするようになった時に、第二出版部から再び声を掛けてもらった。

「アニメロボット大全科」「特撮ロボット大全科」やフィルムコミックの「MOVIE」コミックス木人拳「MOVIE」コミックス龍拳「MOVIE」コミックスゴジラエビラモスラ 南海の大決闘」など、著者・編者として仕事をさせていただいた。

秋田書店のゲーム情報誌「ファミコンチャンピオン」創刊時に編集協力を依頼されたが、当時「徳間書店」や「米国任天堂」とのゲーム関係の仕事を中心にやっていたので、表立って協力できない

かったが、サイドから協力させていただいた。



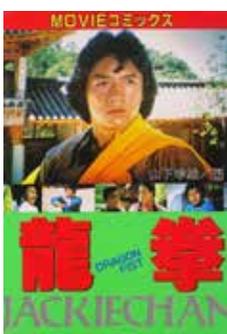
特撮ロボット大全科
秋田書店刊



アニメロボット大全科
秋田書店刊



MOVIEコミックス木人拳
秋田書店刊



MOVIEコミックス龍拳
秋田書店刊



MOVIEコミックスゴジラエビラモスラ
南海の大決闘・秋田書店刊